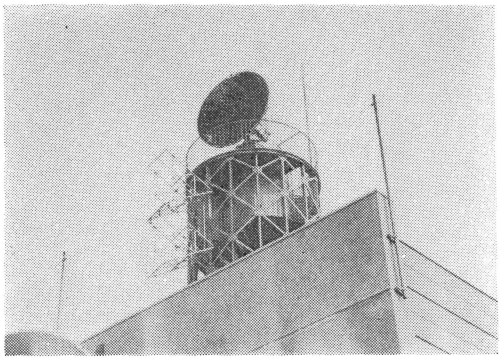
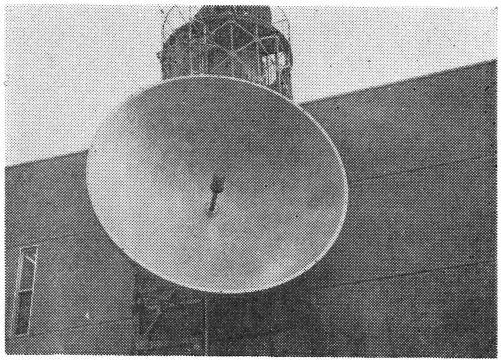
地方だより

東京管区気象台技術課レーダー係



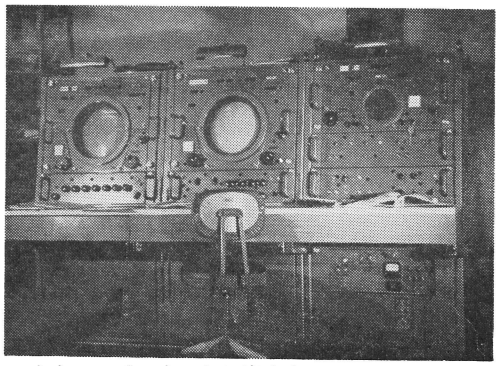
東京レーダー鉄塔およびレーダーパラボラ空中線



富士山レーダー係のマイクロウエーブ用パラボラ空中線

東京レーダーは昭和30年10月末に完成しその12月に本庁より東管に移管になり観測が始められました．10年1昔といわれますが気象レーダー網も次第に整備されて来ておりレーダーがルーチン業務に取り入れられ早くも10年になります．その間に人間衛星が打ち上げられ最近東京オリンピックが全世界に実況中継されるなど夢の様に思っておりました事が現実になって行く昨今であります．最新技術の粋を集めた富士山レーダーの完成もその夢がかなえられたものではないかと思います．10月より暫定的に業務を開始しております．

本年3月に気象庁新庁舎の竣功に伴ない事務室は8階にレーダー観測室は屋上1階に移りました．屋上3階のその上にさらに10米の鉄塔を建てそこには今まで幾多の台風を観測した歴戦の東京レーダーのパラボラ空中線が設置されております．地上高54米で移転前の高さと殆んどかわりません．西側の屋上壁面にあるパラボラ空中線は富士山レーダー関係のマイクロウエーブ用の空中線で富士山頂にあるマイクロ用空中線と正対し固定されております．屋上1階は地上観測とレーダーの現業室になっておりレーダー室には東京レーダーの指示機，富士山レーダーの指示機，マイクロ関係機器，テレメーター関係機器が備え付けられております．ここが主な仕事場です．東京レーダーと富士山レーダーの観測が行なわれると同時に機器の保守が行われます．



東京レーダー室にある富士山レーダー用指示機

富士山頂剣ガ峰のそばにレイドームをもったレーダー塔が建てられそこには直径5米のパラボラ空中線，1.5メガワットの出力を持った送信機，受信機，遠隔制御関係，マイクロウエーブ関係，電源関係，その他の機器がところ狭しと設置されております．それはあたかも孤高たる富士山頂にふさわしい進化した脳細胞の1部が発芽したように考えられましょう．ここでとらえられたエコーはとりもなおさず東京のレーダー室に写し出されます．自然現象の解明のため明るい希望がもたらされましょう．山頂にはレーダー係員が交代で登頂勤務しております．

山頂では設置されている機械や測器の点検，調整，保守が主な仕事です．種類の機器に精通すると同時に他の多くの機器に対しても広く知識をもつことが要求され少人数で良好に機器を作働させるにはここ当分の間は苦難の連続です．さらに冬山の登山ならびに山頂勤務は激しい自然現象に打ち勝つために精神的にも肉体的にも強固な人が望まれます．環境の整備改善を是非進めなくてはなりませんがこれまでに多くの先輩がなしとげて来た貴重な観測はここに新鋭測器による観測に生れ変ろうとしております．山頂のレーダーは防災に役立てると同時に世界中のレーダー気象学を志ざす人々のメッカたらんとのロマンチックな夢を育てて行き度いと思います．

（大塚茂）